A01 BEMS・中央監視データの有効活用手法

工学部・建築学科・教授・河路　友也
t-kawaji@aitech.ac.jp

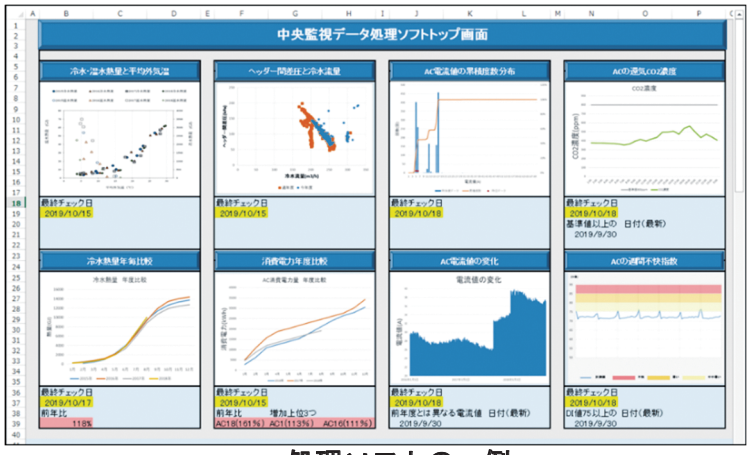
キーワード　BEMS、中央監視、異常検知、省エネルギー

概要

様々な建物にとって、地球環境保護、経費削減などの面から、省エネルギーの実現は重要な課題となっている。建物建設時に、設備の状態を確認するために各種のセンサーが設置されデータが蓄積されている建物も多いが、それらを有効に活用しPDCAサイクルが実行されて初めて省エネルギー効果を得ることができる。しかしながら、データが有効に活用されていない事例が散見される。その理由は、データが膨大で扱いにくい、分析できる専門技術者がいない等である。このような状況を解決するため、BEMSや中央監視データを用いたエネルギー消費量増減の可視化や異常検知システムを構築している。

セールスポイント

1．電子データであれば、どのような形式のBEMS・中央監視データでも対応可能。
2．エネルギー消費量の過年度比較、異常検知等要望に応じてシステムを構成。
3．EXCELで開発するため、特別な追加アプリは不要。



処理ソフトの一例

企業等での活用例、今後の展望等

1．建物用途を問わず、建築設備（空調・衛生・電気）の評価に活用可能。
2．地下街の空調設備、室内温熱・空気質環境について活用例有。
3．省エネ活動を推進したいが、データの扱いに困っている企業での活用を期待。

SDGs、ゼロカーボンへの寄与

省エネルギーの実現により、SDGsの目標7番及びゼロカーボンに貢献できる。

参考資料

地下街を対象とした省エネルギー・温熱・空気質環境に関する研究　その 1 対象施設概要と中央監視データの活用、日本建築学会学術講演梗概集pp487-488、2019. 09